（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和７年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	近代遺産とデジタルを活用した新たな観光事業
事業主体 （連絡先）	筑北村 筑北村西条 4195
事業区分	（6）産業振興、雇用拡大（ア 特色ある観光地づくり）
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	7,929,260 円（うち支援金：5,000,000 円）

事 業 内 容

・旧国鉄廃線敷整備事業（JR 連携/共催）
・旧国鉄廃線敷活用事業（JR 連携/共催）
　JR 駅からハイキング
　廃線敷勉強会
・村キャラクターグッズ製作及び着ぐるみの活用
　のぼり旗/帽子/ジャケット/法被/
　ご当地キャラクター年賀状お返事企画
　着ぐるみのイベント参加
・AR プロモーションツールを活用した観光案内

【イベントの様子】

【目標・ねらい】

① 新たな観光地点の発掘
② JR3 駅の利用増進、案内人の育成
③ 村 PR 及び知名度の向上

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①新たな観光資源の発掘として廃線敷を昨年度より整備してきたが、今年度は利用者の安全確保を鑑みた、照明設置を実施し、ある程度自立したハイキングコースの確立ができたため、目標は達成できた。②駅からハイキングが当初予定の 3 回開催→2 回開催となり、目標人数 380 人→71 人と延べ人数は大幅に減少したが、実施した各回における平均参加者数や満足度は維持されており、事業自体の需要は依然として高い。初めて開催した廃線敷勉強会については、目標 30 名→22 名参加し、欠席者からの資料請求も多く、関心の高さが伺えた。③キャラクターのスタッフ用グッズを職員が身に着けてイベント参加することにより、視覚的に広く PR することができた。

※自己評価【B】

【理由】
やむを得ず実施できなかったコンテンツもあるが、新たな観光資源の発掘としては自立したハイキングコースの設定ができたことで、一定の道筋がついた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。（今後の事業展開、取組の継続に向けた財源確保など）。

今年度は利用者の安全確保を鑑みた照明設置を実施し、ある程度自立したハイキングコースの確立ができたが、案内人の育成・組織づくりの観点ではモニターツアーができなかったため、育成とまでは至らなかった。参加者の熱意は感じたため、今後はモニターツアー再検討も含め、安曇野市とも実施検討していく。最終的には安曇野市と繋げた一体観光は目指してはいるが、費用対効果・安全対策の問題や人員変更などで組織体制や考え方なども変わっており課題は多いため、引き続き、次期体制へ申し送りし、実施検討していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある